

琉球フィルハーモニックは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。  
2020年11月26日に「沖縄県SDGs普及パートナー」として登録。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## SDGsとは？

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



## 琉球フィルによるサステナビリティ活動 「音楽と共にまちと響きあう」

琉球フィルハーモニックでは「音楽と共にまちと響きあう」を理念に行政・地域住民・事業者等との意見交換や連携によりSDGsを意識した取り組みを積極的に行い地域社会とともに持続発展する未来づくりに貢献します。



# 音楽による子どもの居場所づくり



琉球フィルが運営している「ジュニアジャズオーケストラおきなわ」は、那覇市随一の繁華街を有する那覇市若狭公民館区および那覇中学校区の5つの小学校の児童を対象に2016年10月より活動をスタートしました。この事業は「どんな家庭環境の子にも音楽をおとした多様な体験により生きる力を育むルーティン化された居場所づくり」として、自治体や企業等と連携して活動しています。2017年度～2019年度は沖縄県・公益財団法人沖縄県文化振興会の支援により沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業として。2022年度は文化庁「地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部創設支援事業」として活動しています。子どもたちの指導には6名のプロのジャズ講師、フェロー（ボランティア指導員・OB）があたっています。子どもたちは那覇市若狭公民館3階ホールにて週2回の練習会を積み、「若狭地域文化祭」「若狭公民館まつり」などの地域行事や「発表会」、各種イベントでも演奏を披露しています。このことは地域の活性化や世代間交流にもつながり、地域の方々から地元のジュニアジャズオーケストラとして親しまれています。



# 子どもの育成&交流



琉球フィルが運営する「那覇ジュニアオーケストラ」は、2013年10月より活動をスタートしました。団員是那覇市および県内各地の小学生から高校生で構成され、学校や学年の垣根をこえて「思いやり」と「感謝の心」を大切に、音楽活動を行っています。指導者には、琉球フィルハーモニックオーケストラのメンバーを中心に、プロの指揮者や演奏家を招き技術と音楽力の向上に努めています。これまでに1年間の練習成果を披露する定期演奏会の開催をはじめ、多くの演奏会等に出演。2016年には「第6回世界のウチナーンチュ大会」に出演。2015年より「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を6回受賞し、東日本大震災を風化させないことと、音楽による子どもたちの交流を目的に、2016年・2018年・2022年は沖縄県で、2017年と2019年に宮城県で『「響け！復興へのハーモニー～つながる未来～」岩手・宮城・福島・沖縄の子どもたちによる合同オーケストラコンサート』を開催しました。2020年には『いのちよ響け「奇跡のピアノ」沖縄コンサート～さとうきび畑とともに～』に出演。2020年、2021年にはハワイ州観光局支援のもと「ハワイ・ユース・シンフォニー」のチャリティコンサート「The Gift of Music」に、ハワイと日本の5つの姉妹都市のジュニアオーケストラとしてリモートによる共演に参加し、その模様はハワイのテレビ局KHNLの番組「Hawaii News Now」で放送されました。また、病院や施設などでの慰問演奏や、世界で活躍している一流音楽家との交流も行うなど、活動も多岐にわたっています。子どもたちは音楽をおとした多様な体験により、心の豊かさを育み、喜びを分かち合える仲間の輪が広がっています。



ハワイと日本の5つの姉妹都市のジュニアオーケストラとリモート共演

# バリアフリーコンサート



本事業は2019年度より文化庁「共生社会の実現に向けた障害者等による文化芸術活動推進プロジェクト」としてスタートしました。障害者がホール等で音楽を鑑賞する際に、バリアフリーの面ではまだまだ課題があります。そこで障害当事者や音楽、福祉など各分野の専門家が集い「ゆいまーるミュージックプロジェクト」チームを組織し、障害者やご家族、関係者が心ゆくまでオーケストラのコンサートを楽しめるための環境づくりを話し合い、その実践の場として「美らサウンズコンサート」を開催しています。また、本公演では障害を抱えて活動しているアーティストをゲストに招き、共演している音楽家との相互理解と交流を深めていく場にもなります。さらに、公演終了後に冊子を作成しそのノウハウを全国に広め、文化芸術による共生社会の推進に取り組んでいます。これまでに2019年与那原町・2020年与那原町（2公演）・2021年与那原町、うるま市（ライブ配信）にて開催。2022年はうるま市で開催を予定しています。



# 音楽療法による個別療育支援の児童デイセンター



琉球フィルでは演奏活動の他に子どもたちの育成をとおして、子どもたちと音楽の関わりの中から様々な経験を積み重ねてまいりました。その経験を基に、2019年より福祉事業部門を新設し「児童デイセンターこどもの城ミュウ（児童発達支援・放課後等デイサービス）」を開所いたしました。当事業所では、高良幸人氏（音楽療法家）を所長兼スーパーバイザーに招いて、琉球フィルのプロの音楽家と共に音楽療法を軸に、全国でも数少ない個別療育支援を行っています。また、様々な関係各所と連携を取りながら、子どもたちの「育ち」を見守っています。また、中学校の生徒には、就労支援につながるよう社会性が経験できるよう促しています。



こどもの城ミュウ職員



聴覚障害のある子ども達にも、気持ちを表現できる気付きと安心を手助けしています。



親御さんの不安を「今ここ！」のタイミングで緊急援助を行いケアする人のケアを大切に支援してまいります。



言語心理療法家とスタッフが一緒に子ども達の心に寄り添い「ことば」と「きこえ」の促しをしていきます。



子ども達の個性を理解し楽器を通してコミュニケーションを図っています。



ひとりひとりの可能性を引き出すハビリテーション（療育支援）を通して子ども達の個性を響かせていきます。



すべての障害を個性として寄り添い子ども達の「余暇（よか）つた」を応援しています。



音楽おそび/感覚遊び/造形遊び/運動遊びを通したメディアバランスアートをダイナミックに応援します。



アロマセラピストによる穏やかな親子のスキンシップケアができます。

# 離島・へき地の文化芸術振興



舞台公演に触れる機会の少ない離島・過疎地域などで、沖縄県と連携（「地域クラシックコンサート実施事業」「地域の文化芸術振興事業」等）してプロ音楽家によるオーケストラやジャズの公演を開催しています。芸術の感動を体感できる環境づくりや、当該地域において自主的に文化芸術の事業を企画、開催するきっかけづくりや文化創造活動の促進を図り、地域の文化振興を促すことを目的として2015年から取り組んでいます。

## これまでの開催地

久米島、渡嘉敷島、久高島、竹富島、座間味島、南大東島、北大東島、与那国島、金武町、読谷村、与那原町、大宜味村、今帰仁村、国頭村  
ライブ配信・・・伊是名島、伊平屋島、粟国島、大宜味村



# スクールコンサート



琉球フィルでは児童生徒が音楽をとおして心健やかで豊かな生活を送るためのサポートを行っています。プロの演奏家による生演奏をとおして、日頃から接しているCDやメディア（媒体）では感じえない生音楽の素晴らしさ・感動を届けるために、県内の小中高校生を対象としています。このコンサートはプロ演奏家が学校などを訪れ、音楽鑑賞授業として行っています。児童生徒は演奏を鑑賞するほかに、演奏家と一緒に演奏したりする中で、演奏家の音楽に対する姿勢を感じ取るにより向上心の高まりや、学校生活に良い影響が表れたという報告も寄せられています。今後も学校の先生方と連携しながら、より効果的な内容の「スクールコンサート」に取り組んでまいります。



# ICTを活用した様々な取り組み



離島の多い沖縄県において、ICTを活用した質の高い音楽教育を子どもたちや、学ぶ機会を求める人々に対し、効果的な学習環境などを提供できるよう取り組んでいます。



コロナ禍で自粛期間中那覇ジュニアオーケストラの子どもたちはリモートでレッスンを受けました。



N T T西日本が取り組んでいる「アシタを変えるスマート光ソリューション」の空間と空間をつなぐ新たなコミュニケーション遠隔授業で使用している「SmoothSpace」活用した、与那国島の久部良中学校吹奏楽部との音楽交流実証実験の様子。(2021年2月4日N T T西日本沖縄支店 城間ビル1階ロビー)



ワークショップ「憧れのジャズヴォーカル」の離島受講生にジャズヴォーカル安富祖 貴子さんがリモートでレッスンを行いました。(写真は那覇⇄波嘉敷島)

琉球フィル指揮者 後藤 正樹 氏が開発した遠隔双方向授業システム「Real time LMS」のセミナー&ワークショップ関連記事 (2013年4月13日てんぷす那覇ギャラリーにて開催)



## 国境越え 音の交流



携帯端末で「雨」を表現



ピアノを弾くセルゲイさん。子どもたちの作ったメロディーをもとに、すてきな演奏を聴かせてくれた＝ロシアのサンクトペテルブルグ



## タブレットで遠隔授業

琉球フィルハーモニー管弦楽団は13日、子どもたちがiPadなどのタブレット端末を用い、遠隔地の教師と画面を共有しながら英語や数学を学ぶワークショップを那覇市のてんぷす那覇で開催した。子どもたちはスクリーン越しに東京やロシアにいる教師が教える授業を楽しみながら受けていた。同僚の方の普及、離島の学習環境向上を望むのが狙い。

授業は生徒と教師が画面を共有したり、教師が解かされた問題を生徒の端末に送ったりできるラーニング・マネジメント・システム（LMS）を活用した。同僚の制作者で日本デンタル教科書出版の後藤正樹氏が開発した。英語の授業は教師が英語で話した内容を字幕で子どもたちが絵を画面に描きながら、見せられた絵について子どもたちが説明していた。

後藤氏は「沖縄は自然豊かでも学習環境としては素晴らしいが、高等教育局が不足するため、子どもたちが本に入らなくてしまいがちだと苦言を吐いた。

琉球新報2013.4.19



LMSについての講演を行う後藤 正樹氏



難病を患いコンサートへ足を運べない方のため  
に、リモートによる指揮に挑戦の実証実験を行  
いました。  
2021年12月12日

新型コロナの影響で栗国島での公演がライブ配信となったため、ライブ会場（浦添市）とヴォーカル体験受講生（栗国島）をZoomでつなぎ、通信速度によるタイムラグの影響がないように工夫し、遠隔で生演奏に合わせて素晴らしい歌声を披露しました。  
2022年1月27日



「響け！復興へのハーモニーin沖縄 ～つながる未来～」岩手・宮城・福島・沖縄の子どもたちによる合同オーケストラコンサートVol.5の公演は、急速な感染拡大を考慮し、無観客のライブ配信を行いました。共演を予定していた合唱団は飛沫感染防止のために那覇市立仲井真小学校音楽室から限定ライブ配信を行い、その映像と歌声に合わせてホール内のオーケストラが演奏し、その様子をライブ配信しました。美しい歌声が見事にブレンドし、まるで合唱団が会場で歌っているかのような臨場感あふれる共演となりました。  
2022年3月28日



## 地域との連携



包摂的かつ持続可能な街づくりを促進するために、行政・地域住民・事業者等との意見交換や連携により、SDGsの啓蒙活動、課題や具体的な取り組みについて共有し、共助・共創型地域づくりに参加しています。  
(銘苅小・若狭小・小祿南小まちづくり協議会／那覇新都心通り会 他)



## 自然保護活動への参加



「チームけらま」のサポーターとしてビーチクリーンなどの環境美化や自然保護などへの取り組みに参加しています。

※一般社団法人「チームけらま」は慶良間諸島の「環境保全活動」「観光振興」「経済発展」「相互理解による平和交流」「伝統文化の継承」を目的に活動を行っています。



# 平和発信



琉球フィルは、先の戦争で犠牲になった多くの御霊を弔い、平和を希求し、沖縄県平和祈念財団などと協力して平和発信に取り組んでいます。



2017年より「国立戦没者墓苑 盆供養祭」にて献奏を行っています。



「沖縄全戦没者追悼式前夜祭」にて献奏



2016年より「岩手・宮城・福島・沖縄の子どものための音楽交流」の際には、平和記念公園を訪れ、沖縄県民はじめ国民の平和願望、戦没者追悼の象徴として建設された「沖縄平和祈念堂」。国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ「平和の礎」。平和記念公園内の各県の慰霊塔・碑を訪れ、戦争のために亡くなった多くの御霊へ祈りを捧げました。



ハワイと日本の5つの姉妹都市のジュニアオーケストラの映像共演では「沖縄平和祈念堂」と「平和の礎」で収録を行い、音楽と共に平和の尊さを発信しました。



「沖縄平和祈念堂」



「平和の礎」